世界連邦

Newsletter

2018 年 9 月 28 日
第 649 号

発　行　所
世界連邦運動協会
World Federalist Movement of Japan

〒107-0052 東京都港区赤坂 7-2-17 赤坂中央ﾏﾝｼｮﾝ 303
電話（03）6438-9442　ＦＡＸ（03）6438-9443
E-mail: info@wfmjapan.org　Twitter ： wfmjapan
URL: http://www.wfmjapan.org/

郵便振替　00190-6-29964
1 部 100 円（年 6 回　奇数月 1 回 28 日発行）

世界連邦運動 70 周年記念
第 34 回世界連邦日本大会 2018 亀岡市で開催

世界連邦運動 70 周年を記念した「第 34 回世界連邦日本大会 2018in 亀岡」が、ガレリアかめおかの大広間にて 8 月 18 日開催された。主催:世界連邦推進日本協議会、企画・運営:第 34 回世界連邦日本大会 2018in 亀岡実行委員会。外務省、文部科学省、京都府が後援した。500 人を超える人々が参加、翌日の京都新聞には大会の様子が掲載された。

今回の日本大会は、世界連邦宣言自治体全国協議会の総会と併せて開催された。午前中に同総会を行い、懇親会を日本大会の前に昼食を兼ねて行うという、例年とは異なる形をとった。

午後の日本大会では、開会、1 分間の黙とう、開会式に続き、中東和平プロジェクトでイスラエル・パレスチナ紛争遺族会(PCFF:The Parents Circle Families Forum)の関係者がスピーチを行い、裏千家 15 代・前家元の千玄室大宗匠(当協会顧問)が「世界の人とともに―和の心―」と題して記念講演を行い、大会宣言がなされて終了した。

なお、同会場の隣では亀岡市によって、淡交会の方々のお世話でお茶席が設けられ、200 名近くの方が茶道の手前を楽しんだ。

以下、開会式での各氏の挨拶、イスラエル・パレスチナ紛争遺族会からのスピーチ、千玄室氏の講演の順で詳述する。

開会式ではまず、海部俊樹日本大会会長(世界連邦推進日本協議会会長・世界連邦運動協会会長)からの「我々みんな一人ひとりが決意をあらたにして、今日お集まりのみなさんとともに世界連邦運動がますます盛大になりますことを心から期待します。おめでとうございます。」とのメッセージが伝えられた。

中野寛成会長代行

続いて中野寛成世界連邦運動協会会長代行・大会副会長は、ご自身が長崎で被爆したこと、医者をめざしたが色覚の障害で当時はなれなかったので、父親に政治家となって原爆をなくす、平和へ導く道があると諭されたこと、実際に政治家となって衆議院副議長などを歴任し、世界連邦日本国会委員会の会長も仰せつかったこと、世界連邦実現に関する国会決議成立の経緯に関わったことに触れ、世界連邦運動は世界法によって統治される世界を目指す決意が述べられた。

衛藤征志郎衆議院議員

衛藤征志郎世界連邦日本国会委員会会長・大会副会長からは、前任の横路孝弘会長からこの任を受けるように仰せつかったこと、国際連帯税創設を求める議員連盟の会長も務めていることなどが紹介され、河野太郎外務大臣は同税の創設に熱心なので、途上国の福祉に役立てる上でなんとか創設にこぎつけたいとの表明がなされた。

山崎善也綾部市長

山崎善也綾部市長・世界連邦宣言自治体全国協議会会長は挨拶で、西日本豪雨で被害を受けた方々に哀悼の意を捧げ、一国家では解決できない紛争や人権、環境、エネルギーなどの問題は世界連邦的ガバナンスが必要であることを訴え、尾崎行雄や賀川豊彦、湯川秀樹各氏ら先達に敬意を表するとともに、自治体協議会が始めたイスラエル・パレスチナ紛争遺児の交流である中東和平プロジェクトについても紹介し、今大会で両関係者を招聘したことを述べた。

続いて桂川孝裕亀岡市長が挨拶し、今大会を開催できたことは亀岡市として喜ばしく、亀岡は千玄室大宗匠の奥様に生涯学習かめおか財団の初代理事長をしていただき、千玄室大宗匠にも同様にお世話になったことなどに触れ、当地ゆかりの明智光秀は NHK の大河ドラマ「麒麟がくる」でもとりあげられること、亀岡市は平和を希求していること、世界的空手家を何名も輩出していることなどを紹介した。

桂川孝裕亀岡市長

来賓の挨拶として京都府知事の代理で岩永美好南丹広域振興局長が出席し、西脇隆俊京都府知事の祝辞を代読した。

イスラエル・パレスチナ紛争遺族会の広報担当者が語った報告の概要は以下の通りで、通訳は矢野裕巳 NPO 法人大本イスラエル・パレスチナ平和研究所/常務理事・主任研究員が行なった。

事前に、山崎善也綾部市長から、中東和平プロジェクトは 2003(平成 15)年に京都府綾部市で始まり、2016(平成 28)年の和歌山県高野町開催まで 10 回を数えること、中東でオスロ合意の崩壊後、1994 年ノーベル平和賞をイツハク・ラビン首相、シモン・ペレス外相、ヤーセル・アラファト議長の三者が受賞したが、ラビン首相は 1995 年に暗殺されたこと、その後ペレス平和センターがつくられ、そのもとに PCFF が結成され、そこで活動する双方の関係者が今回招聘されたことが伝えられた。

アマル･アブ･アヤシュさん

【Amal Abu Ayyash アマル･アブ･アヤシュさん(パレスチナ)の話】

京丹後で行われた中東和平プロジェクトに参加し、首相官邸も訪れた。私は三人の身内をなくした。一人は祖父である。2002 年 3 月に 2 回目のインティファーダで投石をしていたおじがなくなった。父のすすめで遺族会に参加した。もう一人のおじは 20 歳でなくなった。占領された地域だったので葬儀もできなかった。

私は父が遺族会の行事に熱心だったのがなぜかいぶかしんだが、憎しみだけでは平和は訪れないし、和解というプロセス、赦しがなければ平和的には解決できないという結論に達し、自分も活動に積極的に参加することとなったことを伝えた。

ヤイファット･モハルさん

【Yifat Mohar ヤイファット･モハルさん(イスラエル)の話】

アマルさんとは今は友人である。私の両親も遺族会のメンバーである。身内をなくしているが、平和への希望は失っていない。

私はエルサレム生まれで母は弟(私のおじ)を 1948 年になくしている。私の実の兄もおじと同じように殺された。兄のことを今でもよく覚えているのは、私を抱き上げてみんなのいる部屋へ連れていきギターを弾いてくれたことである。もう一人の兄は治安の悪い北部の国境で殺された。婚約者である女性にプロポーズした直後のことだった。彼女はヘブライ大学で文学を専攻し、テニスを愛好する音楽家である。明るい未来が約束されているはずの二人であった。私の家族は喪失感と荒廃に苛まれた。しかしやがて暴力の連鎖を止めるには和解しかないと気付いて、遺族会の活動を熱心にやるようになった。

平和をつくるには和解のプロセス、その枠組みをつくることが重要である。単なる停戦は平和を意味しない。イスラエルの学生の 9 割の人がパレスチナの人をテロリストのように恐れていて不安に感じている。双方はお互いに話をすることをしたがらない。しかし対話集会をして意思疎通することが重要である。お互いに話をすれば不信感はぬぐえる。

(阿久根 武志)

裏千家 15 代・前家元 千玄室大宗匠の講演

千玄室大宗匠(当協会顧問)の講演要約は以下の通り。

千玄室大宗匠

亀岡市に生涯学習センターができて家内が理事長を務めるなどご縁があって、今回、亀岡市での日本大会で講演することにつながった。私は公益財団法人日本国際連合協会の会長を仰せつかっている。裏千家 15 代・前家元で「一盌からピースフルネスを」と唱え続けている。

私は現在 95 歳である。20 歳の頃、徴兵の検査を受け、海軍に入隊した。先祖の千利休は戦国時代、武家であり茶人として活躍した。武士は刀を外して茶室に入らせた。豊臣秀長と千利休が秀吉に朝鮮を攻めないように諫めたが、千利休は切腹を命ぜられた。

第二次大戦中、私は海軍で飛行士官となったが、大学出身なので、スペアとして扱われた。訓練は悲惨であり、10 か月で一人前になるように命ぜられた。戦友は鹿児島の鹿屋から爆弾を積んで沖縄まで 4 時間で飛び、アメリカのグラマン爆撃機や艦船に立ち向かった。従軍した兵士たちはお国のため、天皇陛下のためのみではなく、家族のために戦ったのである。唯々、平和を念じていた。

私は茶道のおかげで今も元気である。戦争当時、茶箱を持っていき、一盌の茶で戦友達と小さな茶会をした。「おふくろに会いたいな」とぽつりと言った者がいた。鹿屋の基地の資料館には「おかあさん生きて下さい。私は先に行きます。」といった遺書が残され、涙なしには読めない。いつの世も大事なのは親と子のつながり。貧しくても心温かいつながりが大事である。昔は肩寄せて茶の間でなんでも分けあって茶を飲んだものである。現代は飽衣飽食の時代である。もったいないと、ものを大事にする考えがないがしろにされている。いただきます、ごちそうさまでしたと感謝する心が大事。私は母からご飯を食べるとき、農家の方へ感謝する気持ちを常に持たなければならないと教えられてきた。「米」という字は農家の人が八十八もの手間をかけたことを表している。農家の人がいないとおまんまを食べられない。松下幸之助さんは私の父から茶道を学んだ。人間は何でも修することが大切だといわれた。

生きていくにはまず誠実さ、正直さが大事。それさえあればどんな世界でも打ち勝って行ける。私は日本の教育制度については、現在の 6・3・3 制をもとの制度に戻してくれと再三お願いしている。私は漢文を好んで学んだ。韓国の学者の金容雲先生は「日本語の正体―倭の大王は百済語で話す」という本を著しておられて、日本語は百済語の発音と似ているという学説を唱えておられる。

663 年白村江の戦いで日本・百済連合軍は完敗し、百済王族は日本へ亡命してきた。秦(はた)一族もそうである。最澄の頃、遣唐使が遣わされた。藤原為時は紫式部の父であり漢詩の達人である。当時は渤海から使者がよく来た。

1274 年と 1281 年に元寇が起こり、モンゴルのフビライ・ハンが攻めて来た。時は鎌倉時代で、武家が対応し、台風にやられてモンゴル軍は滅びた。日本人は洋に対するコンプレックスが強い。江戸時代 200 年以上鎖国していたが、鎖国にはいい面と悪い面がある。和魂洋才で明治維新後は世界へ目を向けた。武士道はノーブレス・オブリージュの考え方と似ている。高貴なる者の務めである。茶道は武士道を支えて来た。茶道の精神は和敬清寂。茶室へは刀をおいておかないと入れない。茶室のにじり口はひざまずいてしか入れない。日本人は情の世界に生きてきた。おもいやりが大事。もてなしは少しの心遣いでできる。洋魂洋才では情けない。戦場で命を落とした人は靖国で会おうと合言葉にしたが、本当は、俺たちは戦争で命を落とすけれど、日本は平和になってくれよと願っていたに違いない。

私は当時、松山へ戻れとの命令で、終戦を迎える。戦友を思うと申し訳なかったという思いがある。ある友人は「生きて帰ったら、お前の茶飲ませてくれ」と言った。私はそれを聞いてはっとした。特攻で 250kg の爆弾を抱え、信管を抜いて飛び立つ。戦争は悲惨で残酷である。二度と戦争をやってはならない。

世界連邦という考え方はとても素晴らしい。国連もよいが、拒否権が認められている現在、まだ世界平和はなしえていない。世界連邦はもっと広がってよい運動である。

拒否権で国連が機能しない時には世界連邦の皆さんで建白書を出すくらいのことをやってはどうか。

戦争はあってはならない。そのことを、身を以て体験してきた。人間はみんな一緒、区別・差別のない世の中にしなければならない。己の幸せの目的のために生きることができる社会に。世界はまだまだ教育が行き届いていない。特に途上国がそうである。なぜこうやって争わないといけないのか、くやしい実態がある。反省する心、思いやる心が大事。我が先ではなくちょっと下がる。茶道でお茶を飲むとき、正面を避ける。半歩下がること、衝突しないこと、そういう思いやりが大事。“After you”お先にどうぞという心の余裕が大事である。真の平和がくるようにと、私は一盌のお茶を捧げ、世界を廻っている。

（阿久根 武志）

第 34 回世界連邦日本大会宣言文

本日の大会では、世界連邦運動の関係者にとどまらず、世界情勢・平和・環境などに関心を持つ多くの市民が集まりました。亀岡は、綾部市に次ぎ、全国で 2 番目に世界連邦宣言を行なった先進的な平和都市であり、70 周年記念大会にふさわしい地であります。

現在、朝鮮半島の非核化がどのように実行されるのか、世界の注目を集めております。また、大国間の貿易戦争の懸念や、イギリスの EU 離脱など、世界の分断・対立の予兆も見られます。私たちは世界を分断・対立の方向でなく、多様性を認めながら統合・共生の方向を探っていかねばなりません。

今回の大会ではイスラエル・パレスチナ紛争遺族会よりヤイファット･モハルさん、アマル･アブ･アヤシュさんをお招きし、過去の中東和平プロジェクトに参加した遺児たちの現状や PCFF の和平活動の取組等について情報共有を行いました。紛争が続くイスラエルとパレスチナの間で、しかも、その紛争で肉親を失った遺児の間で、交流を通じてお互いを理解し、友情が結ばれていることを確認し、世界の恒久平和・世界連邦の実現が必ず達成できることを改めて認識しました。

また、千玄室先生からは、「世界の人とともに―和の心―」という演題の下、記念講演をいただきました。茶道文化の浸透と世界平和を願い、各国を歴訪した豊富な体験と国際的な視野をもとにこれからの世界平和、これからの日本人について熱いメッセージをいただきました。

先日 8 月 6 日に世界連邦運動協会は結成 70 年を迎えました。この 70 年のあいだに、1 都 2 府 25 県 208 市区町村において世界連邦自治体宣言がなされ、2005 年には衆議院、2016 年には参議院において世界連邦国会決議もなされました。私たちは、政府がこの決議に基づいて早急に世界連邦実現の道の探求にとりかかることを求めてまいります。

本日の大会をふまえ、70 年の伝統ある運動を発展させ、世界平和を維持する確固とした基盤を築くことに邁進いたします。

以上、宣言します。

中東和平プロジェクト 2018
― 河野太郎外務大臣・衛藤征士郎国会委員会会長と面談 ―

中東和平プロジェクトは、イスラエル・パレスチナ双方から、紛争で肉親を失った遺児を日本に招き、様々な交流を通じてお互いを理解し平和の大切さの認識を深めてもらう企画である。2018 年の今回は、紛争遺児たちを派遣する窓口となってきたイスラエル・パレスチナ紛争遺族会(PCFF)の広報担当者、イスラエルの Yifat Mohar(ヤイファット･モハル) 氏とパレスチナの Amal Abu Ayyash（アマル･アブ･アヤシュ）氏を招いた。一行は 8 月 15 日から 17 日にかけて過去のプロジェクト開催地である京都府綾部市・京丹後市、和歌山県高野町の関係者と面会し、18 日に開催された世界連邦日本大会においてメッセージ・スピーチを行なった後、20 日には東京を訪れ、午前中に河野太郎外務大臣、夕方に国会委員会の衛藤征士郎会長と面談した。20 日の面談には PCFF の両氏のほか、綾部市の山崎善也市長、亀岡市の桂川孝裕市長らが同行した。

外務省では、河野外務大臣のほか、中東アフリカ局長の岡浩氏ら、外務省の職員数名が同席。面談は、大臣も通訳官を介さず全て英語で行われた。河野外務大臣は「遺族会の方々の来日を歓迎します。そして、この中東和平プロジェクトが、これまでイスラエル・パレスチナ紛争に

向かって右：河野太郎外務大臣

よる遺族の子どもたちに、平和について考える機会を提供されてきたことを評価いたします」という旨のスピーチをされた。また、河野外務大臣は、イスラエル・パレスチナが厳しい状況にあり、交流する際の言葉の問題や、現地で交流できる場所などについても心配されたが、それでも「遺族の方々がそれぞれ帰郷してからも、平和の実現に向けて、さらなる貢献をされることを期待しています」と述べられた。

衆議院第一議員会館では国会委員会の衛藤征士郎会長が、自身も地元大分にイスラエル・パレスチナ双方から「ちびっ子」を招き、サッカーで交流を深めた体験を語るとともに、中東和平プロジェクトの意義を高く評価し、激励した。

なお、パレスチナのアヤシュ氏は、2013 年に京丹後市で行われた中東和平プロジェクトでは遺児として参加し、その体験を経てイスラエル・パレスチナ紛争遺族会の活動に積極的に関わっている。一つの取り組みが次に繋がった好例と言えそうだ。

（谷本 真邦）

WFM-IGP 世界大会 2018 オランダのハーグで開催

世界連邦運動の国際事務局(WFM-IGP)による世界大会(congress)が、2018 年 7 月 9 日～13 日、オランダのハーグにて開催された。ハーグは、1899 年と 1907 年に万国平和会議が開催され、第一次大戦後には常設国際司法裁判所、現在は国際司法裁判所が設置されている「平和の地」であり、WFM としてもアメリカの NY とともに本部事務所がある場所でもある。

日本からは、MO(会員団体)として世界連邦運動協会から元参議院議員の犬塚直史執行理事・国際委員長、AO(協力団体)として世界連邦日本国会委員会から事務局員の谷本真邦(世界連邦運動協会執行理事・国際副委員長)が参加した。さらに、これまで世界連邦運動関係者とともに国際連帯税導入を目指して活動していただいた上村雄彦横浜市立大学教授が今大会を機に世界連邦運動協会に入会を確約して参加、世界連邦運動協会ユースフォーラム支部から京都大学大学院の竹田響氏も参加。また、インドにあるアジアユースセンターを代表して、国際事務局執行委員(エグゼクティブコミッティーのメンバー)でもある金光教泉尾教会長の三宅光雄世界連邦運動協会執行理事と同氏の令嬢で元WFM国際事務局員でもある三宅かおる氏が参加した。

今大会では、主たる会場である Bazaar of Idea のほか、WFM が多くの NGO を取りまとめて国連に働きかけ設立に貢献した国際刑事裁判所を訪問した。

大会では多くのことが議論されたが、特に重要な点は組織変更である。大きな決議として、理事会(council)と世界大会(congress)に集まるメンバーがほぼ同じであるという理由で、これらを一つに統合し、理事会・理事制度は廃止、そのかわり今後は世界大会(congress)を 2 年に 1 度開催することとした。そして新たな世界の諸問題に対し、WFM の持つ国際的な性質を活用して、当局者や専門家の幅広い協力を推奨して取り組む TWGs(トランスワーキンググループ)を設立することを合意した。

大会の最終日には、会長(president)、大会長(chairperson of congress)、執行委員会委員長(chairperson of executive committee)をはじめ、各役員・執行委員を選出した。会長(president)には元カナダ外相で、保護する責任の提唱者の一人として著名なロイド・アクスワージ氏が再選されたほか、共同会長としてアルゼンチンの政治家、フェルナンド・イグレシアス氏が新たに選任された。また日本からも、元首相である海部俊樹世界連邦運動協会会長が次期大会へ向けた名誉大会長に推挙されたほか、副大会長に三宅光雄氏が選出され、さらに新たな執行委員として犬塚直史国際委員長と三宅かおる氏が選出された。

さらに日本の代表団から、以下の四つの提案を行い、全て採択・決議された。

決議１：世界連邦に向け民主的グローバルガバナンスのための国会議員グループを各国に作り、世界連邦国会決議をすることを求める。

決議２：日本等の北東アジアにおけるヒューマニタリアン・リリーフ・タスクフォースのイニシアチブ構築を WFM は支援する。

決議３：世界の国会議員に対し国連議員総会設置の決議を求める。

決議４：世界連邦実現に向け、持続可能で民主的グローバルガバナンスの強化をするために必要となる資金として、国際連帯税の導入を目指す。

続いて、2020年の次期世界大会は日本で開催したいという意向がアジアユースセンターから提案された。この提案は満場の拍手で受け入れられたが、正式決定は今後のWFM執行委員会においてなされる予定である。今大会で執行委員に選出された犬塚国際委員長は「今回の大会全体を通して日本の存在感が高まった。」と感想を語った。

（谷本 真邦）

広島・長崎平和記念式開催

グテーレス氏、長崎原爆犠牲者慰霊式に参加　国連事務総長として初

例年、8 月 6 日開催の「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」には、世界連邦運動協会会長および世界連邦日本国会委員会会長が招待されている。私(谷本)は両会長の代理として出席させていただいている。今年は 8 月 6 日が世界連邦運動協会の設立 70 周年にあたり、また昨年、核兵器禁止条約の採択に貢献した ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)がノーベル平和賞を受賞しているので、特に感慨深いものがあった。8 月 9 日開催の「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」にも同市と外務省のご配慮で参列させていただいた。

中満泉国際連合事務次長･軍縮担当上級代表と

広島では、慰霊式前日の 5 日に「核兵器廃絶日本 NGO 連絡会」(世界連邦運動協会や ICAN など、核廃絶を目指す NGO 団体で構成)と中満泉国連事務次長軍縮上級代表との会合が行われた。中満氏からは我々が設立 70 周年を迎えることに対してお祝いの言葉をいただき、我々の運動に官民の諸アクターが参加していることから、国会議員団に国連訪問などのアイデアを提案することなどについて話し合った。

6 日の式典では、主催の広島市の松井一実市長が平和宣言で「(日本政府に対して) 核兵器禁止条約の発効に向けた流れの中で国際社会が核なき世界へ対話と協調を進めるよう役割を果たしてほしい。そして朝鮮半島の緊張緩和が対話により進むことを希望する。被爆者が年々減少する中その声に耳を傾けることが一層重要」という旨のアピールをした。来賓の安倍晋三首相は「核保有国と非保有国の考え方の違いが顕在しているので粘り強く橋渡しに努める」という旨の挨拶をした。続いて国連の中満事務次長がグテーレス事務総長のメッセージを代読した。会場には、原爆を投下したアメリカのハガティ駐日大使が久しぶりに参列していたほか、英仏露などの核保有国からの外交団の姿もあった。この式典に核保有国の参加があることは、有意義なことである。

今年は、長崎市での慰霊式・平和祈念式典に国連事務総長として初めてアントニオ・グテーレス氏が出席した。事務総長は首相と一緒に東京から長崎に向かうことになっていたが、その日に関東に台風が接近していたため、飛行機が飛ばせないのではないかと政府職員の方々とともに心配をしたが、幸い台風の速度が急に遅くなり、無事長崎入りすることができた。私自身は、前夜に予定が入ったので夕食会に参加できず、ゆっくり事務総長とお話しすることはできなかったが、それでも式典当日に宿泊先の長崎ホテルで数か月ぶりの再会をし、少しだけ事務総長と会話をすることができ、式典の出席に敬意を表した。

9日の式典のスピーチにおいて事務総長は、2017年に1兆7000億ドル以上のお金が武器や軍隊のために使われ、これが世界中の人道援助に必要な金額のおよそ80倍にあたること、すべての国が核軍縮に全力でとり組み、緊急の問題として目に見える進歩を遂げるべきであること、平和とは、抽象的な概念ではなく、偶然に実現するものでもなく、努力と連帯、思いやりや尊敬によって築かれるものであることを強調した。そして、最後に「私たちみんなで、この長崎を核兵器による惨害で苦しんだ地球最後の場所にするよう決意しましょう。その目的のため、私は、皆さま方と共に全力を尽くしてまいります。」と結んだ。

この事務総長のメッセージは、大変心強く期待できるものであった。一方、国連は国家同士の会合の場であり、核保有国が特権を持っているという厳しい問題をはらんでいる。核保有国と非保有国の溝が深まるなか、国家を超えた考えのできる私たち、市民社会・自治体・国会など各界が連携して活動をしている世界連邦運動こそが、これからの平和、軍縮、人間の安全保障のために果たすべき役割は、ますます大きくなってきている。

以下はグテーレス国連事務総長の話（部分)。

今年5月に私はグローバルな軍縮イニシアティブを発表しました。軍縮は、国際平和と安全保障を維持するための原動力です。国家の安全保障を確保するための手段です。軍縮は、人道的原則を堅持し、持続可能な開発を促進し、市民を保護するのを助け

ます。私の軍縮アジェンダは、核兵器による人類滅亡のリスクを減らし、あらゆる紛争を予防し、武器の拡散や使用が一般市民にもたらす苦痛を削減するために、現在の世界で実現可能な様々な具体的な行動を打ち出すものです。このアジェンダは、核兵器が、世界の安全保障、国家の安全保障、そして人間の安全保障の基盤を損なうことを明らかにしています。核兵器の完全廃絶は、国連の最も重要な軍縮の優先課題なのです。

ここ長崎で、私は、すべての国に対し、核軍縮に全力でとり組み、緊急の問題として目に見える進歩を遂げるよう呼びかけます。核保有国には、核軍縮をリードする特別の責任があります。長崎と広島から、私たちは、日々平和を第一に考え、紛争の予防と解決、和解と対話に努力し、そして紛争と暴力の根源に取り組む必要性を、今一度思い出そうではありませんか。

平和とは、抽象的な概念ではなく、偶然に実現するものでもありません。平和は人々が日々具体的に感じるものであり、努力と連帯、思いやりや尊敬によって築かれるものです。原爆の恐怖を繰り返し想起することから、私たちは、お互いの間の分かちがたい責任の絆をより深く理解することができます。私たちみんなで、この長崎を核兵器による惨害で苦しんだ地球最後の場所にするよう決意しましょう。その目的のため、私は、皆さま方と共に全力を尽くしてまいります。

（谷本 真邦）

SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム

演説する河野太郎外務大臣

2018 年 7 月 26 日 13 時半より衆議院第一議員会館国際会議室において「SDGs のための国際貢献と国際連帯税を考えるシンポジウム」が行われた。グローバル連帯税フォーラムと国際連帯税創設を求める議員連盟による共催、さらに日本リザルツ・国際交流センター・外務省が協力。世界連邦運動協会も「グローバル連帯税フォーラム」の加盟団体として運営に携わった。

シンポジウムは世界連邦運動協会の谷本真邦氏の司会で始まり、共催団体を代表してグローバル連帯税フォーラムの田中徹二代表理事と国際連帯税創設を求める議員連盟の衛藤征士郎会長が挨拶。衛藤会長からは、「河野外務大臣は過去どの外務大臣よりも国際連帯税に熱心に取り組んでいる。来年大阪で行われる G20 では国際連帯税についてのアピールと宣言をお願いしたい」との挨拶があった。

つづいて河野太郎外務大臣より、次のような挨拶があった。「冷戦が終わって平和になるかと思ったら、昨年は難民・国内避難民の数が過去最多になった。また、先進国には援助疲れが見られる。日本の ODA(政府開発援助)もかつては世界一を誇っていたが、今はピーク時の半分となった。SDGs に必要な開発のためには、国連貿易開発会議(UNCTAD)の試算によれば毎年２兆５千億ドルの資金ギャップがあるという。国際連帯税はこの資金ギャップを埋める有力な方法の一つだ。皆様の輪を日本だけでなく、世界に広げていただきたい。」

挨拶後、横浜市立大学の金子文夫氏より「国際連帯税の意義と未来」と題した基調講演、北海道大学法学研究科博士課程の津田久美子氏より欧州の最新の情勢についての報告があった。

ここで国際連帯税創設を求める議員連盟の事務局長・石橋通宏参議院議員と、学習院大学の福岡真菜に司会を代わり、次の各氏より応援コメントや提言をいただいた。

津島雄二氏(元議連会長、元衆議院議員)、広中和歌子氏(元議連副会長、元参議院議員)、金子宏氏(東京大学名誉教授、欠席、メッセージのみ)、寺島実郎氏(日本総合研究所会長、多摩大学学長)、ローラン・ピック氏(駐日フランス大使) 、カーラ・ハダッド・マルディニ氏(UNICEF公的パートナーシップ局長)、サネ・フルニエ＝ウェンデス氏(UNITAID[航空券連帯税]事務局長アドバイザー)、柏倉美保子氏(ビル&メリンダ・ゲイツ財団日本代表)、伊藤聡子氏(日本国際交流センター執行理事)、稲場雅紀氏（SDGs市民社会ネットワーク理事)、岩附由香氏(ACE代表)、川崎昌則氏(大塚製薬㈱医薬品事業部抗結核プロジェクト次長)、青葉博雄氏(国際公務労連[PSI]東京事務所所長)、古沢広祐氏(國學院大學教授、環境・持続社会研究センター[JACSES]理事長)。

最後に白須紀子氏(日本リザルツ代表)により宣言文案が提案され、拍手をもって採択された。宣言文は鈴木秀生氏(外務省地球規模課題審議官)に手渡された。今回のシンポジウムはあまりにも豪華・多彩なゲスト・講師なので、それぞれのコメントをここに示す余裕がない。ご関心ある方は http://isl-forum.jp/archives/2375で報告書をお読みください。

（塩浜　修）

本部と支部の主な動き

8月11日 ﾋﾟｰｽﾋﾞﾚｯｼﾞ第64回賀川豊彦と世界連邦運動 講師：杉浦秀典氏(賀川豊彦記念松沢資料館副館長)
8月18日 世界連邦宣言自治体全国協議会総会 亀岡市
8月18日 第34回世界連邦日本大会2018in亀岡 ｶﾞﾚﾘｱかめおか
9月8日 ﾋﾟｰｽﾋﾞﾚｯｼﾞ第65回「日本がエネルギーの90%を依存する中東で起きていること―日本では報道されないできごと―」講師：岩浅紀久氏(IT ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ研究所 代表/JICA ﾊﾟﾚｽﾁﾅ中小企業支援ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ専門員)
9月9日 「誰にでも分かる中東問題」大本東京本部 講師:矢野裕巳氏 関東愛善会支部共催
9月24日 *「核なき世界へ向けて－被爆国の役割を考える」明治大学ﾘﾊﾞﾃｨｰﾎｰﾙ 核兵器廃絶日本NGO連絡会主催
9月29日第20回年次大会世連ﾑｰﾌﾞﾒﾝﾄ北海道2018 札幌市民ﾎｰﾙ 横路孝弘氏講演他
10月20日 世界連邦運動協会石川県連合会2018年度秋の講演会 「世界連邦運動と日本国憲法～WFM世界大会 2018～」講師：犬塚直史氏(世界連邦運動協会国際委員長)
10月19日 第2回理事会 衆議院第二議員会館
10月21日 国連議員総会創設ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ 中崎町

退任の辞

世界連邦運動協会事務局長　阿久根 武志

2007年1月から世界連邦運動協会事務局に関わって12年目、現在、事務局長を担当しておりますが、一身上の都合で2018年9月末をもって退任させていただきます。四ツ谷の市ヶ谷富久にあった旧事務所で栗橋さんや木戸さんにご指導いただいていたのが昨日のことのようです。

様々な甚大な自然災害が頻発している昨今、国連緊急平和部隊(UNEPS)の構想はWFM本部では頓挫してしまいましたが、犬塚直史国際委員長が谷本真邦氏と共にこの夏参加した世界大会での提言HRTF(Humanitarian Relief Task Force：人道救援タスクフォース)が決議文として通りました。私もこれまで世界大会やWFM執行理事会に何度か参加させていただき、世界中で国連議員総会創設などそれぞれのプロジェクトに携わるエキスパートたちと意見を交わす機会があり、彼らと交流することができたことは私の人生にとって貴重な糧となりました。

これまで海部会長、日下部理事長をはじめ役員の方々、そして支部の皆様をはじめ、団体会員の方々、核兵器廃絶などそれぞれの目的で活動をともにしているNGOの方々など、大変お世話になりましたことを感謝いたします。

外務省や政府への、世界連邦実現に関する政策提言においては、世界連邦関連六団体で意見調整し連携する際、木戸寛孝常務理事や塩浜修常務理事・世界連邦日本国会委員会事務局長の働きをそばで拝見し、意思疎通を円滑にはかることの難しさや機微などを感じました。

事務局長時代、日本の様々な支部での行事や、日本大会などで各地をまわった際、その地域の方々が地道に世界連邦運動に取り組み続けておられることが目に焼き付いています。また、ポスター作文コンクールやさまざまな会合で世界連邦21世紀フォーラムを中心とする仲間が支えてくださったことに本当に感謝しています。世界連邦運動協会本部を去ることとなりましたが、これからも世界連邦運動には関わり続けてまいります。

退任にあたり温かい励ましを多くの方々からいただきました。厚く御礼申し上げます。みなさま大変お世話になりました。今後は大津智史氏が事務局長、野田武志氏が補佐となり事務局を支えます。お二方にも大変お世話になりました。これからの世界連邦運動が世代を超えて受け継がれることをお祈りしております。

編集後記　☆Newsletter リニューアルに向けて鋭意作成中です。より見やすくしていきます。ご期待ください。(大津) ☆自治体協議会の総会と日本大会の同日開催で運営に携わった亀岡市の皆様は大変だったとことと思います。お陰様で発足70周年に相応しい大会になりました。ありがとうございました。(塩浜) ☆昭和20年、生後100日目にB29編隊爆撃機による敦賀空襲で危うく死ぬところだった私にとっても、千玄室氏のご講演は万感胸に迫りました。(平口)

お詫び：前号の夏季広告に誤りがございました。人類愛善会会長は浅田秋彦様ではなく、鈴木穎一様です。訂正してお詫び申し上げます。

編集委員会/委員長：大津智史　副委員長：塩浜修・平口哲夫　委員：荻野忠則・村上智規